主人公Yuji。

彼は、記憶がなかった。夢だと思って戦っていた。もともと親切な性格だったので、周りに促されるように戦うので会った。しかし、だんだんと、リアルな痛覚を感じることによって夢ではないと思い始める。

そのまちそのまちの人々は彼を知っている風だった。人々は、彼に親切にした。（大人だけがかれのことを知っているようだ）時には、モンスターも彼と戦うことで、改心し、

仲間になることもあった。ある町にたどり着いたとき、彼はある銅像を見る。それは、彼に衝撃を与えた。勇者の父親だった。でも本当の血のつながりはなかった。彼は、孤児で勇者と過ごしていたのだ。その時彼は、一気に記憶を思い出した。優者だった父親が仲間に裏切られ、死んだことを思い出した。それを知ったとき、少年だった彼は悲しみで記憶を失っていたのである。モンスターたちも、銅像を見て、涙を流していた。モンスターは話すことはできない。彼らは裏切ったゲルググによってモンスターに変えられていたのである。でも、記憶を取り戻した彼は、もうショックで記憶を失うことはなかった。旅を経験し、心身ともに強くなった彼は、めげなかった。今の彼には仲間もいる。仲間は、つらかったら、ここでやめてもいいんだよという。しかし、父親の仇、そして、彼の亡骸を地元に持って帰るために、そして、おびえて暮らす街の人たちのため、大魔王となったゲルググを倒すのであった。

ゲルググの城には、父親が殺された時の絵が飾ってあった。怒りに震える勇者。ゲルググは、父親を殺した理由を述べる。「いつも偉そうで、何でも人よりできると思ってやがる。」ゲルググは、勇者の兄だったのである！

ゲルググの力はかなり強大で、負けそうになる。しかしその時、温かな光がYujiを包み込んだ。町の人々が、彼のために祈り、そして力を分けてくれているのだ。

ゲルググの攻撃は、彼には効かない。傷は治っていく。ユージは、ゲルググを倒すことに成功するのだった。と思った矢先、仲間がゲルググによって、コントロールされ、ユージを殺そうとする。しかし！父の幽霊があらわれ、仲間を眠らせ、それを防ぐ。

「父さん・・・！」

「やれ、ユージ。お前は俺の子だ。」

「うおおおお！」

そしてゲルググを倒したのであった。

眠っていたモンスターの体は、次々と人間の体に戻ってゆく。

「ユージ、ずっと君と話したかったんだ」

「ごめんね、最後は力になれなくて。回復してあげる」

「おおきくなったな、ユージ」

モンスターたち、仲間は彼に矢継ぎ早に話しかけた。

「ユージ、そして仲間たちよ。」

「父さん！父さんの体はどこ？」

「俺の体は、もうない。只、これを持って帰ってくれないか。俺の魂はここに眠っているよ」

「うん、父さん。」

消えていく勇者。

「父さん！ぼく、会えてうれしいよ！ずっと大好きだよ！」

ハグを交わし、そして消えていった。

涙を流していたが、すがすがしい気持ちだった。

「ユージ、ここはもう崩壊するわ。転送魔法で帰りましょう」

フラワーがユージたちを村に返した。

ユージは村に帰り、魔物によって襲われた村の孤児たちをひきとっていた。

ユージはみんなにたくさんの愛を与え、子供たちは立派に育っていったのである。

（完）